『広島平和科学』28 (2006)　pp. 45-62　ISSN0386-3565
Hiroshima Peace Science 28 (2006)

＜研究ノート＞

峠三吉自筆草稿画像目録

松尾　雅嗣
広島大学平和科学研究センター

<Research Note>

A Directory of Electronic Images of Hand-written Manuscripts of Sankichi Toge

Masatsugu MATSUO
Institute for Peace Science, Hiroshima University

SUMMARY

Most of the known historical material of Sankichi Toge, the atomic bomb poet, is in the custody either of the Central Municipal Library of Hiroshima city or of Mr. Takashi Toge. When one tries to examine the material personally, however, the access to it is difficult, if not impossible. Electronic images of the material are one of the ways to

make this access much easier. Fortunately, all the above material has already been microfilmed, and, for this purpose, we have converted most of the films into electronic images. In addition, we have also created electronic images of the material not microfilmed so far. At the same time, we have compiled and published a comprehensive directory of the Toge material. The present paper is a report of our attempt at linking the two data in the form of an electronic mage directory. At present, the electronic image directory contains only Toge's hand-written manuscripts of literary works and essays.

This paper describes how the directory is prepared, which difficulties and problems are met, and sometimes solved, in the process of preparation, what are its nature and structure, and how the directory can be used. It also provides some examples of images in the directory as illustration.

Though the directory described here is not a finished one, it is hoped that it can make the access to the original material much easier, and thus contribute to further understanding of Toge's works.

はじめに

現在確認されている峠三吉関係の資料の大半は、広島市立中央図書館と峠鷹志氏によって所蔵されている。広島市立中央図書館所蔵分（以下、中央図書館資料と略称）と峠鷹志氏所蔵分（以下、東京資料と略称）は、いずれもほぼ全点マイクロフィルム化され、広島市立中央図書館に保管されている。確認された資料は、言うまでもなくこれに限らない。例えば、広島文学資料保全の会が保管する資料などもその例である。

２００４年に『峠三吉資料目録』（松尾雅嗣・池田正彦（編）、広島大学平和科学研究センター研究報告３２、以下「資料目録」と略称）として刊行した目録は、中央図書館資料と東京資料を合わせ、さらに追加資料を加えた既存全資料の統一的目録である[1)]。未確認資料存在の可能性は到底否定できないとしても、現在これが最も網羅的な目録である。

この目録は二次情報であり、飽くまで資料の種類と存在とを示すものに過ぎない。研究者、関心のある人々にとって真に有用なのは、資料そのもの、即ち一次情報である。確かに、峠三吉の作品については、峠自身が編んだ『原爆詩集』（峠三吉著　青木書店、昭和２７年）、『にんげんをかえせ・峠三吉全詩集』（且原純夫解説　風土社、昭和４５年）、『峠三吉作品集　上・下』（増岡敏和解説　青木書店、昭和５０年）などが刊行されている。また他の資料についても、評伝『八月の詩人』（増岡敏和著　東邦出版社、昭和４５年）をはじめ、上記作品集から作品、日記、随筆、覚書などの一端を窺うことができる。しかしながら、いずれもページ数などの制約から部分的な紹介にとどまり、原資料について十分な情報を与えるものではない。ましてや、これら原資料へのアクセスは必ずしも容易ではなく、峠三吉とその時代の研究にとって大きな隘路となってきたことは否めない。

原資料を電子画像化し、提供することの意味はここにある。直接に原資料を検討することができればそれに越したことはないが、現実にはさまざまな障害が存在する。それを克服するひとつの方法が資料を電子画像として提供することである。原資料をデジタル画像化し、これをＣＤあるいはＤＶＤといった

媒体によって提供するという方法である。勿論、電子画像といえども、後述のように画像の精粗や鮮明度によっては、最終的に原資料に拠らなければ内容を確定できないことも少なくはない。しかし、この方法により、原資料へのアクセスの問題は格段に改善できるはずである。資料のデジタル化のメリット、特に峠三吉研究にもたらす新たな可能性については既に他の箇所で触れたので[2)]、ここでは取り立てて論じない。

電子媒体ではないが、昭和２０年８月６日直後の峠三吉の日記の写真画像を冊子体（池田正彦・松尾雅嗣（編）、『峠三吉被爆日記』、広島大学ひろしま平和科学コンソーシアム）で刊行したのは、電子画像を以って原資料に代える試みのひとつである[3)]。しかしながら、日記の一部のような少数の資料であればいざ知らず、数千に及ぶ画像を印刷物として刊行することは不可能ではないとしても実現困難であり、現実的な方法としては電子媒体として利用するほかない。しかも、電子媒体で利用するとしても、ＣＤ数枚に格納された画像ファイルの中から探し出すことは相当の時間と労力を要する。利用の便を向上させるためには、何らかの方法で直ちに画像を検索できる形にする必要がある。

この目的のために、上述の資料目録から原資料の画像を迅速かつ容易に呼び出せる形にしたのがここで紹介する画像目録である。

１　資料と収録範囲

現在、中央図書館資料については、マイクロフィルムに撮影されている、峠差出、峠宛の書簡類、峠自筆の日記、草稿、ノートなど峠の生涯と作品に密接な関わりをもつ資料を中心に、中央図書館所蔵の詩集『原子雲の下より』の現存する応募原稿も合わせ、電子画像化が終わっている。但し、フィルムが欠落した資料がごくわずかながらある。また、マイクロフィルムに撮影されていない好村富士彦氏寄贈資料などは、スキャナーを利用してデジタル画像化した。東京資料については、そのすべてをマイクロフィルム画像からデジタル化した。その他の資料についても、広島文学資料保全の会保管の詩誌『われらの誌』全号、『反戦詩歌集』１、２、坂田（旧姓平岡）和子氏寄贈資料などをデジタル画

像として記録した。このように現在知られている峠三吉関係の資料については、電子画像化の作業はほぼ終わっていると言ってよい。

今回作成した自筆草稿画像目録は、電子画像化した中央図書館資料、東京資料、その他の資料のうち、峠三吉自筆の作品草稿の目録と画像を一体化したものである。具体的には、詩、小説、童話、短歌、俳句、劇作台本、シナリオ、評論、主張の草稿を収録した。檄文、アピールの草稿も含む。また、作品と必ずしも直接のかかわりはないが覚書・メモの類も基本的に収録した。他方で、習字、絵画の類は、除外した。また、自筆のものとはいえ、日記、書簡類は原則として収録対象から除外した。これは現在無条件に公開できないものが含まれるからである。

この画像付き目録の収録対象は、「資料目録」所収の資料のうち、１　自筆草稿類の（１）詩、（２）小説・童話、（３）短歌・俳句、（４）評論・主張、（５）台本・シナリオ類に記録された資料である。但し、「資料目録」の誤りの訂正があるので、若干の異同がある。

２　目録の形式と構成

本画像目録の形式、構成及び内容は、若干の修正と変更はあるが基本的には上記「資料目録」を踏襲する。資料の分類、配列等はすべて「資料目録」に従っている[4)]。誤解を恐れずに言えば、本画像目録は、「資料目録」の個々の資料にその電子画像を対応させたものである。　例えば、本目録の冒頭「（１）詩」の先頭部分は次のようになっている、

資料番号	資料名	日付	備考
M1934	裸木	不明	鉛筆書　Ａ５ザラ紙１枚　署名
M1935A	そよ風	不明	鉛筆書　Ａ５ザラ紙１枚
M1937	懸命に立っている 裏面　「生まれて…」	不明	ペン書　薬包紙１枚
M1709B	＊詩集「潮鳴り」	11～12 晩春	M1709 所収

「資料目録」との違いは二つある。第一は、目録の太字（ボールド体）で示された資料番号がハイパーリンクになっており、任意の資料番号をクリックす

れば、詳細については次節で述べるが、当該資料の画像が表示されることである。例えば、上掲目次の資料番号 **M1935A** をクリックすれば、画像（末尾の画像例１）が表示される。

第二は、冊子体の目録とは異なり、作品名、草稿表題が判れば、比較的容易に検索が可能である。これに関しては、将来的には、表題のみならず、草稿の冒頭の数文字ないし一節を抜き出してアイウエオ順などに配列した索引を用意することも考えなければなるまい。

３　電子画像の作成の詳細と処理上の問題

ここでは、目録の電子画像使用の前提としてまず電子画像作成の詳細とその際遭遇した問題について述べておく。

目録に収録した電子画像は、Acrobat の PDF 形式で作成されている。作成の手順は大略以下のとおりである。まず、フィルムの画像をひとコマごとに TIF 形式のファイルに変換する。次いで、元のフィルム画像の不要な余白のトリミング、画像の回転などの編集作業を必要に応じ行う。元の画像は、フィルムのリール番号とコマ番号がファイル名として与えられているだけであり、資料との対応をつける必要があるので、TIF のファイル名を「資料目録」の資料番号に変換する。一件の資料が複数画像から成る場合は、資料番号に枝番を付して区別する。他方、フィルムのないものは、スキャナーを利用し、直接 TIF 形式の画像とする。ファイル名は同様の方式で与える。一度書かれた原稿などの上に、付箋を貼り付けて追記、修正などを施した資料もある。この場合は、付箋を付けた状態と付箋を裏返した元の状態それぞれを示す二つの画像を作成した（資料番号 T0040 の一部など）。

この後、TIF 形式の画像を PDF 形式に変換し、複数画像から成る資料は連結してひとつの PDF ファイルとする。上述のように大半がマイクロフィルム画像から作成されたので、目録に収めた電子画像も若干の例外を除きすべてモノクロである。

今回提供する画像には、原資料、元のフィルム画像、作成手順に起因するいくつかの難点が残っている。

第一に、フィルム画像が極めて不鮮明で、次頁の画像例２に示すように、記された文字の判読が困難なものも少なくない。このため、同じ頁や用箋が二度撮影された資料もある。この場合には、画像を取捨することなく両方を電子画像として示した（M1719, M1720 など）。文字の判読困難は、自筆草稿の用紙の変色、特に黒化、ペン書き文字、特に黒以外のペン書き資料の退色などが主な理由である。また、用紙の裏表に記された草稿には、裏面の文字が移ったため、程度の差はあるが読みにくくなったものもある。上掲の画像１は、判読の障害にはなるとも思えないがこの一例である。この種の資料については将来原資料を再度撮影することも考慮しなければなるまい。

第二に、使用された用紙は、個々の資料、具体的には草稿（以下は草稿と覚しき断片も含むものとする）と必ずしも境界が一致するわけではない。一枚の用紙に複数の草稿が記されることもあれば、一編の詩が複数の用紙に部分的に記されることもある。具体的には、次のような事例が頻繁に見られる。

（１）　「詩集」などと題されたノートの場合、一編の詩が頁の途中から始まり、それ以降の頁の途中で終り、また次の草稿が始まる例。画像例４はその例である。

（２）　おそらくは戦後の物資不足、特に用紙不足によるものと推察されるが、綴りになっていない用紙一枚を使用する場合にも、一編の草稿を記した後、余白があれば別の草稿が記されている例。（画像例３）また、画像例４の最初の左頁の下段に記された「夏祭」（資料番号　T0387）もその一例である。極端な場合、用紙の上下あるいは左右を回転させてあるいは斜めに回転させて記されることもある。また、一綴の用紙についても、用紙の左右と上下使用が混在している例もある（資料番号　T0016　「小説　ヨハン少年物語（バルバラの恩返し）草稿」、M1719「覚書　「落書（３）」（抄録帳）峠光芳」のＰＤＦ２頁目など）。このような画像を見るときには、資料ごとに、場合によっては見開き頁ごとに、PDF 画像を利用者が回転させて見る必要が生ずる。

上記（１)、（２）の場合、些か煩雑冗長ではあるが、当該資料を特定する目的で、当該資料を赤枠で囲って示してある。画像例４には、当該資料が２ページにわたる例を示す。

物資不足、とりわけ用紙不足の影響であろうか、ビラ、反古などの裏面に記された草稿も相当数に上る。この場合、本来は用紙の裏面であったものを草稿の表と解し、本来の表を裏面として扱った。このように利用されたビラなどは作品の理解には直接の関わりはないが、峠の創作活動の一端を窺うよすがともなることから、目録部分に「・・・の裏面使用」と明記し、画像としても草稿部分の後ろに付け加えた。画像例５がその例である。PDF ファイルの最初の頁は資料番号 M1958 「詩　離脱」である。この詩は「日英豪交歓音楽会会員券」の裏面に記されたものである。PDF の２頁目には、本来の表である会員権を示す。

４　画像付き目録と使用方法

本目録は差し当たり電子媒体で提供の予定である。また、インターネットでも公開予定である。提供に当たっては、当然のことながら、研究目的以外には使用しないこと、目録利用による成果を公表する場合は、原資料所蔵者と目録作成者を明記すること、そのままの形であれかこうした形であれ、第三者に譲渡・提供しないことが条件となる。

本目録はＣＤで提供する。ＯＳは Windows XP である。ＣＤでも利用可能であるが、ハードディスクに適当なフォルダーを作成してＣＤの内容をすべてそのフォルダーにコピーしておいたほうがはるかに使い勝手がよい。必要メモリは約６００ＭＢである。

本目録に収録された資料はすべて Acrobat の PDF ファイルとして提供される。従って、本目録の使用には Acrobat Reader が必要である。

具体的使用の手順は以下のとおりである。

（１）　目録本体（「峠三吉自筆草稿」という名のファイル）を開く

（２）　目録を先頭から順次見る場合は別にして、詩、短歌などのカテゴリを利用するか、作品名（の一部）を利用して検索する。（この検索は、目録本体内の文字列についてのみ可能であり、画像に含まれる文字列を対象とするものではない）。

（３）　資料に付された資料番号をクリックすれば、画像が表示される。複数画像からなる資料は、ひとつの PDF ファイルとして連結されているので、Acrobat Reader の機能を使い任意の順で表示できる。Acrobat Reader は利用者にとって最適の拡大率で画像を表示するとは限らないので、表示された画像は拡大・縮小する必要がある。画像の拡大、縮小、回転なども同様に Acrobat Reader の機能を利用する。Acrobat の標準版を利用する場合、利用者の行った変更がそのまま記録されることもある。

（４）　任意の資料の画像を見終わった時には、目録本体に戻る。以後、必要に応じ、上記（２）～（３）を繰り返す。

５　結び：課題と展望

ここに紹介した峠三吉自筆草稿の画像目録は決して完全なものではない。現在知られる資料を網羅しているとしても、自筆草稿のすべてを網羅するという保証はない。さらに所収の資料の画像についても、原資料自体の劣化、フィル撮影の問題、電子化過程の問題など多くの問題が残されている。原資料に当たらなければどうしようもない場合も少なくない。にもかかわわらず、この種の資料画像が、資料へのアクセスを容易にし、峠三吉の作品を理解するきわめて有用なツールとなることは否定できないと思われる。

本稿で述べた画像目録は峠三吉の自筆草稿のみを対象とする。日記、書簡等も含む峠三吉関連資料の網羅的な画像目録、少なくとも峠の自筆資料の網羅的な画像付目録が望ましいことは明かである。将来的には、この自筆草稿画像目録を拡張して、自筆資料あるいは関連資料全体の画像目録を作成することを計画している。そしてその準備も遅々としてではあるが、整えつつある。しかしながら、いくつかの権利に関わる問題があり、現段階ではすべての資料を無条件

に公開できるものではない。差し当たり公開の範囲は、自筆草稿とし、媒体は、ＣＤとウェッブサイトとする。

デジタル化の完成の後には、テクスト化、いわゆる翻刻、の課題が存在する。手書原稿を活字として起こす作業である。上述のように自筆草稿の一部は既に先人の手によって翻刻され、公刊されているが、多くの資料はいまだ翻刻させ行われていないのが現状である。これはわれわれの時間と能力をはるかに超える作業であり、ここでは将来の課題として指摘するにとどめるが、この作業のためにもデジタル画像が大きな助けとなることは確かであろう。

註

１　詳細については、松尾・池田(2004)、「まえがき」参照。
２　池田正彦・松尾雅嗣 (2004), 104-109 参照。
３　この画像は、広島大学ひろしま平和科学コンソーシアムのホームページ（http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/cons/05.html）でも公開している。
４　詳細については、松尾・池田(2004), vi-ix 参照。

引用文献

池田正彦・松尾雅嗣 (2004)「峠三吉東京資料：峠資料電子化の文脈で」、『広島平和科学』, 26, 101-131
池田正彦・松尾雅嗣（編）(2004)、峠三吉被爆日記、広島大学ひろしま平和科学コンソーシアム
松尾雅嗣・池田正彦（編）(2004), 峠三吉資料目録、広島大学平和科学研究センター研究報告 32

謝辞

本研究には、平成１５年度前期広島大学研究支援金「原爆文学を中心とした広島原爆資料の目録作成と電子化の研究」（研究代表者:松尾雅嗣）平成１７~１９年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究Ｃ　研究代表者松尾雅嗣）の支援を受けた。

また、峠三吉著作権継承者である峠鷹志氏と、マイクロフィルム版の所蔵者である広島市立中央図書館には資料閲覧とデジタル化に際しお世話になった。

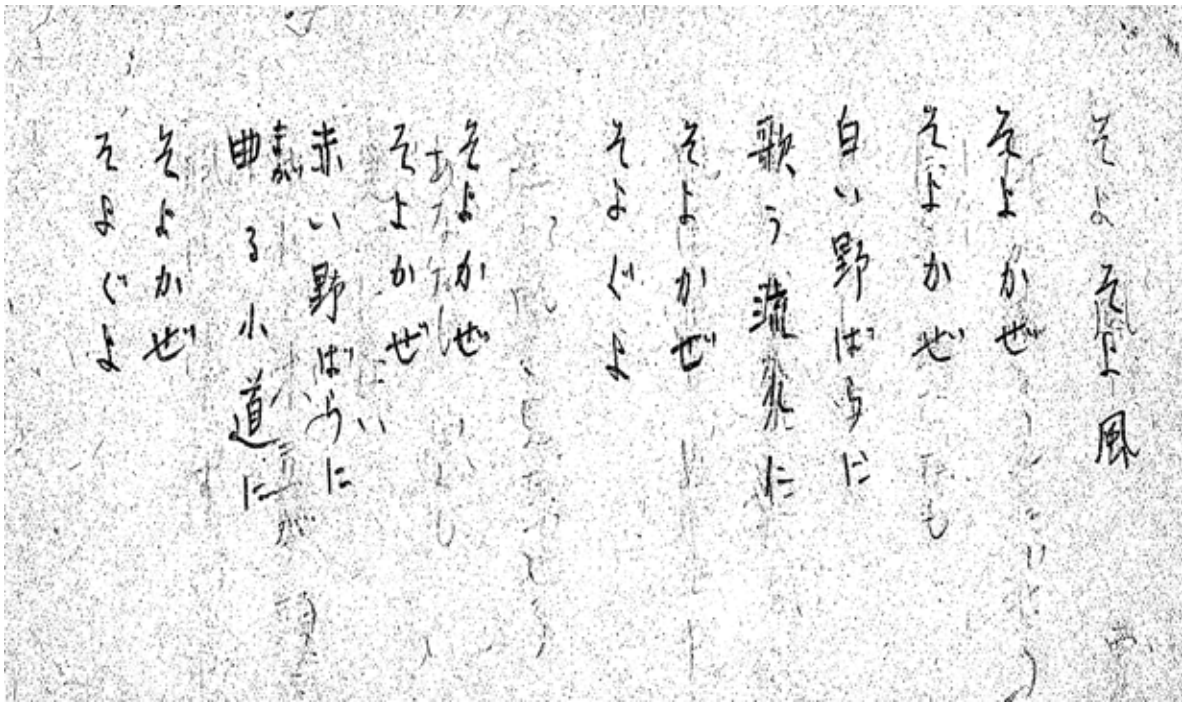
広島大学大学院国際協力研究科博士課程前期の深林真理さん、前田さららさん、橋本金平さん（いずれも当時）、安田女子大学学生の日高愛さんには資料のデジタル化でお世話になった。

広島文学資料保全の会の池田正彦氏には、この研究の機会を提供していただくとともに、資料の整理、資料所有者との仲介、共同研究など多くの協力と支援をいただいた。

ここに記して感謝の意を表したい。

画像例　1

資料番号 M1935A　詩　「そよ風」


そよ風

そよかぜ
そよかぜ
白い野ばらに
歌う蒲公英に
そよかぜ
そよぐよ

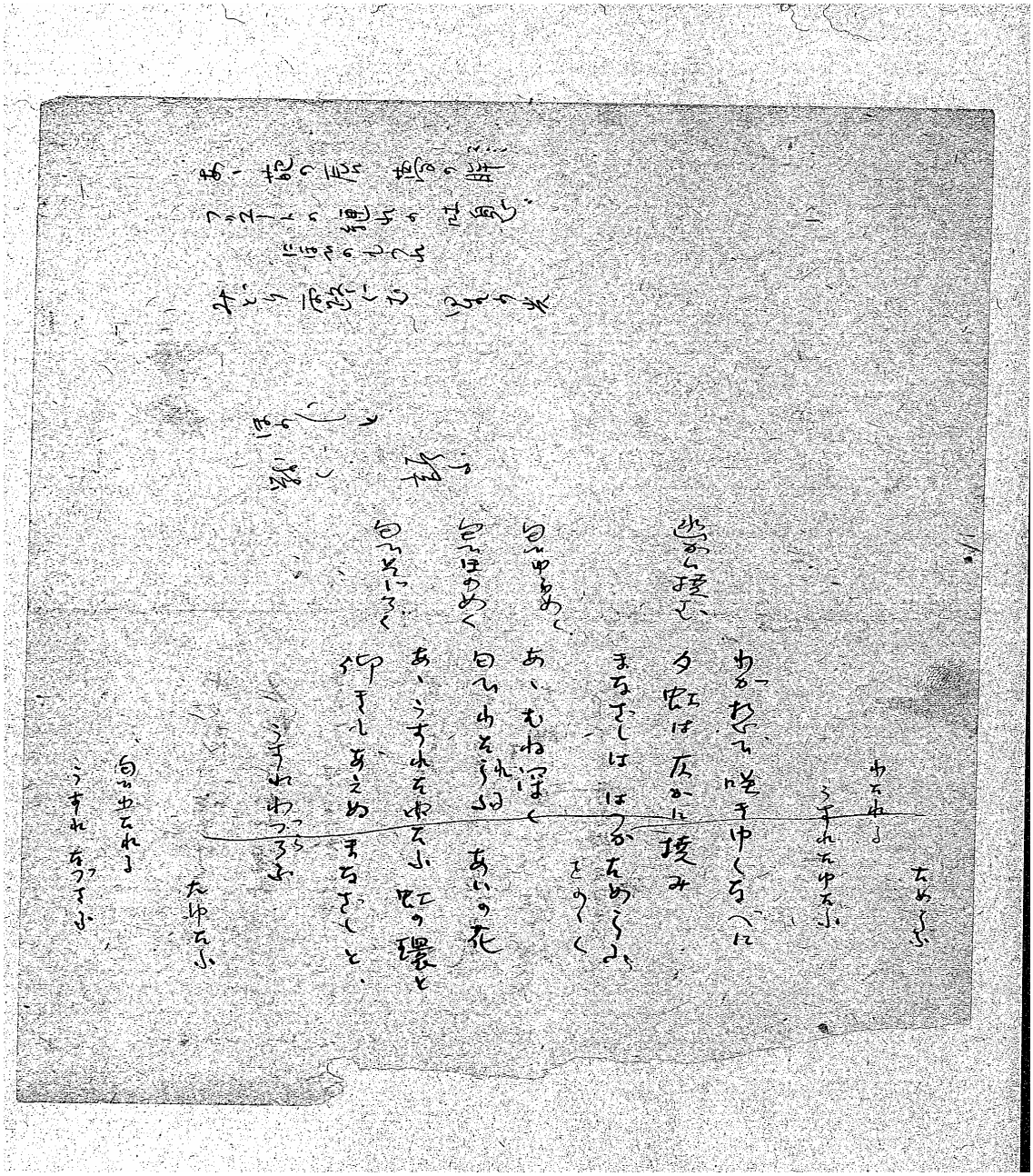
そよかぜ
そよかぜ
赤い野ばらに
曲る小道に
そよかぜ
そよぐよ

画像例　2

資料番号 M1867 評論　芸術に於ける問題

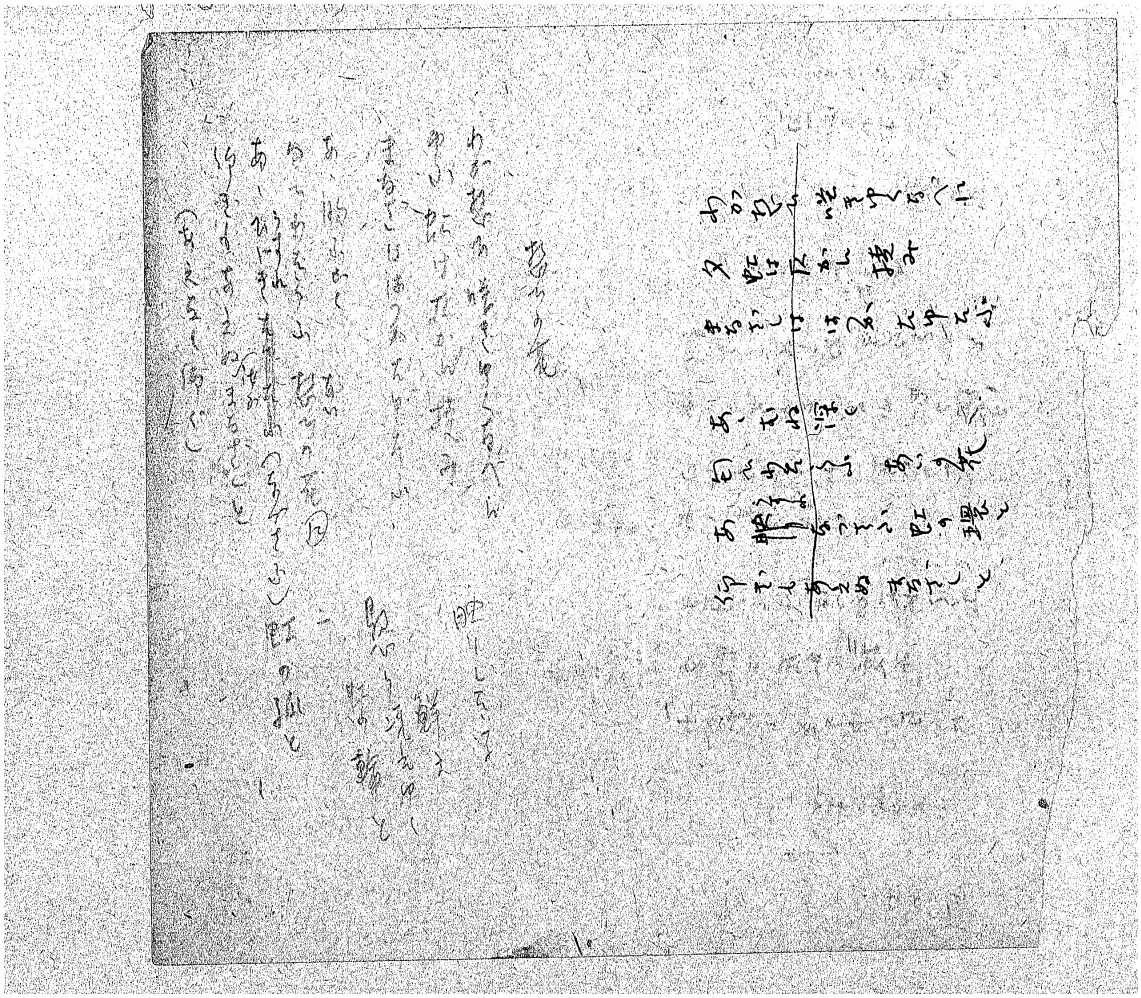
画像例　3　回転を要する資料（表）

資料番号 M2066　「わが想ひ咲きゆくなべに…」ほか断片



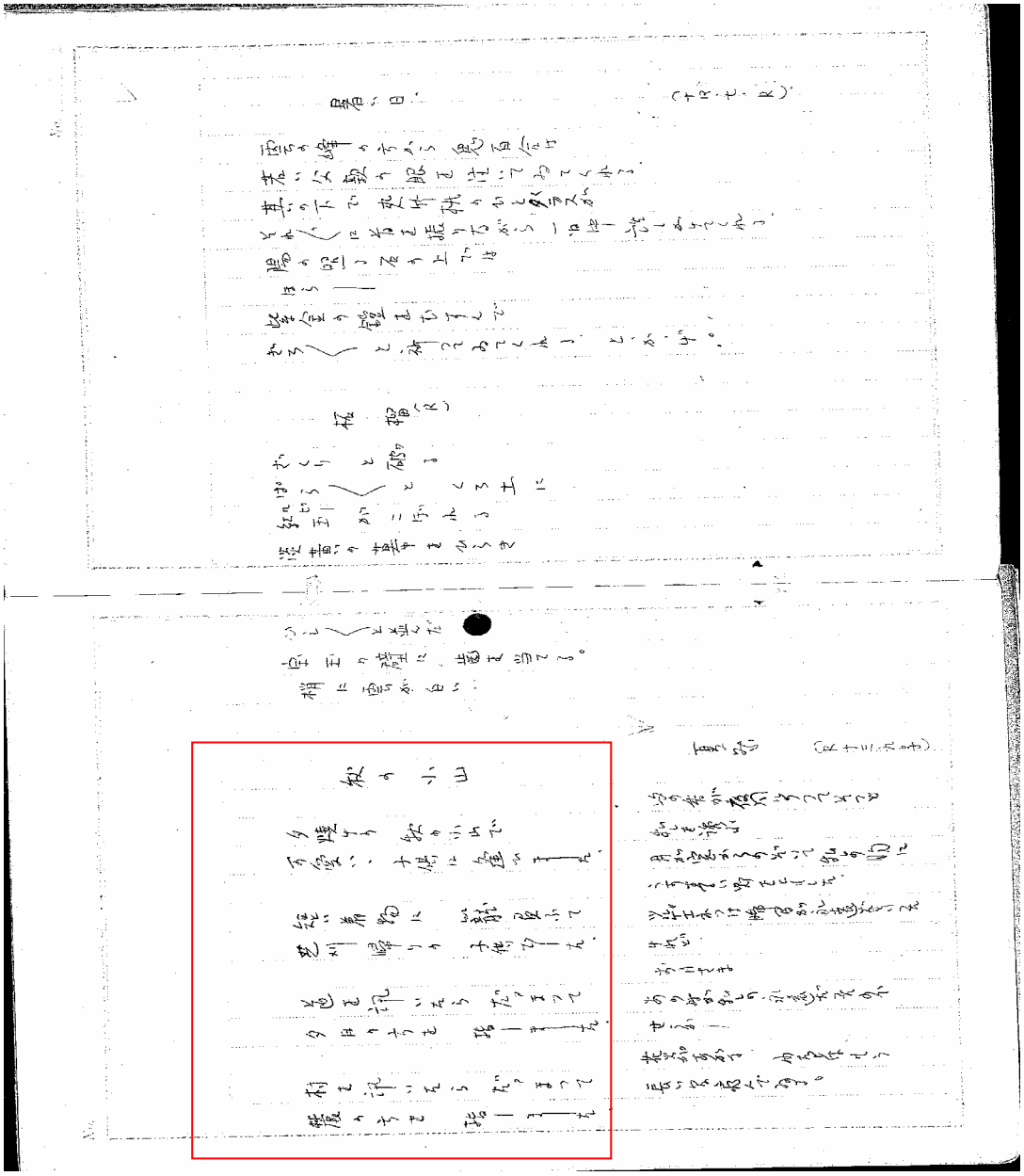
画像例　3　回転を要する資料　続き（裏）

資料番号 M2066　「わが想ひ咲きゆくなべに…」ほか断片　続き



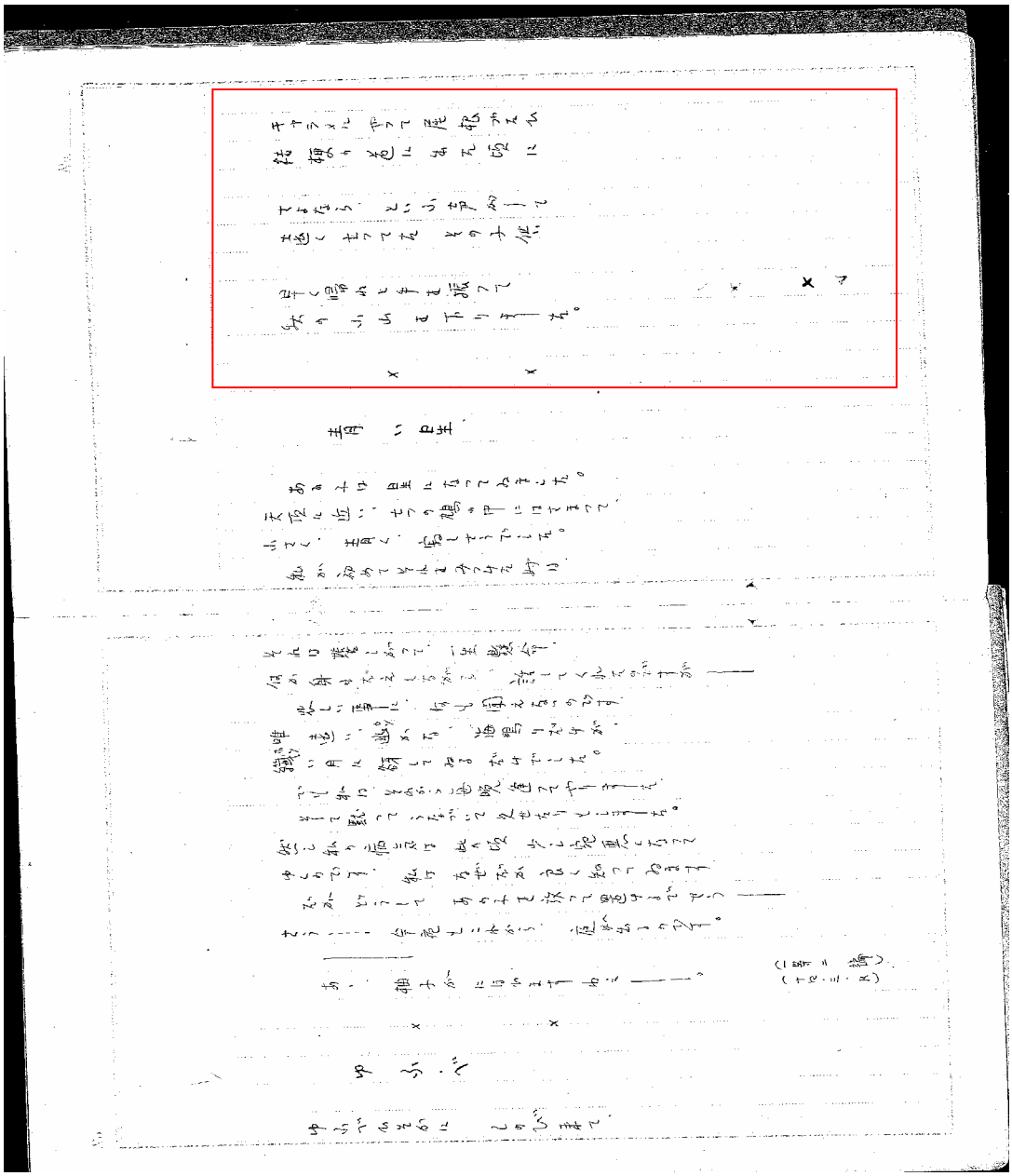
画像例　4　赤枠による資料の特定

資料番号 T0388 詩　秋の小山

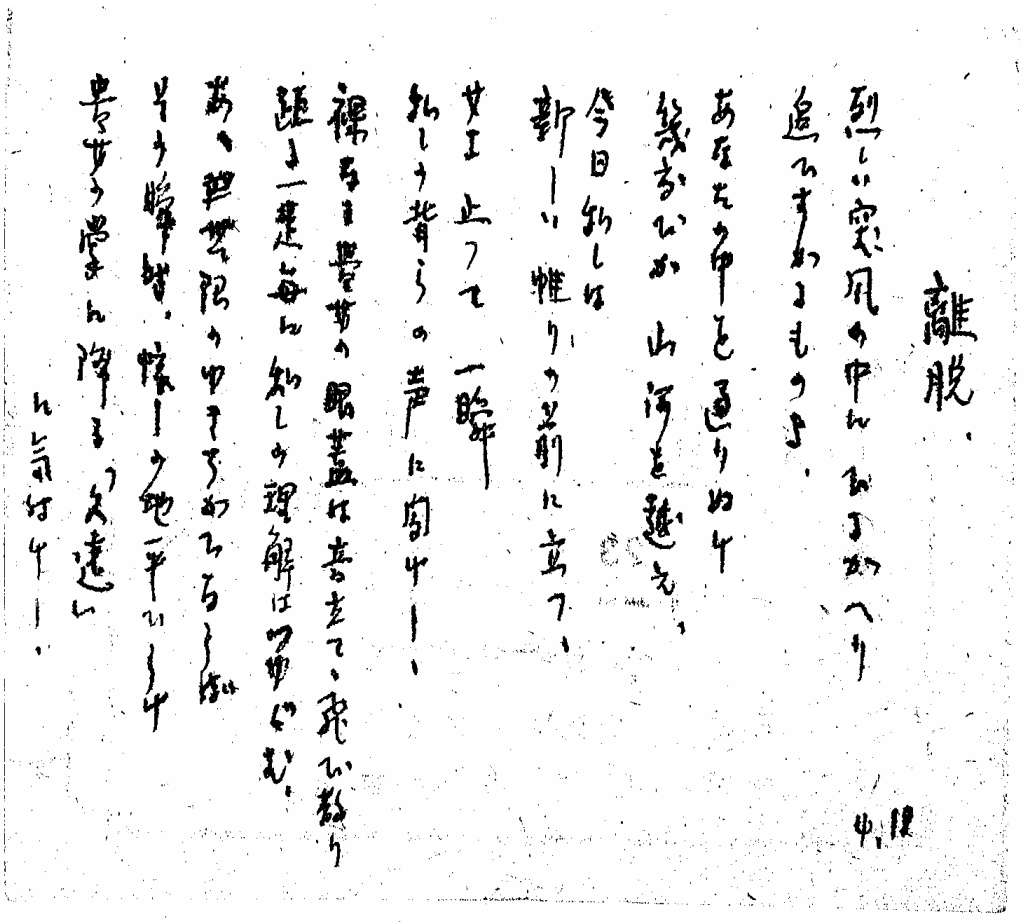


画像例　４　赤枠による資料の特定（続き）

資料番号 T0388 詩　秋の小山（続き）



画像例　５　裏面使用の例
資料番号 M1958 「詩　離脱」



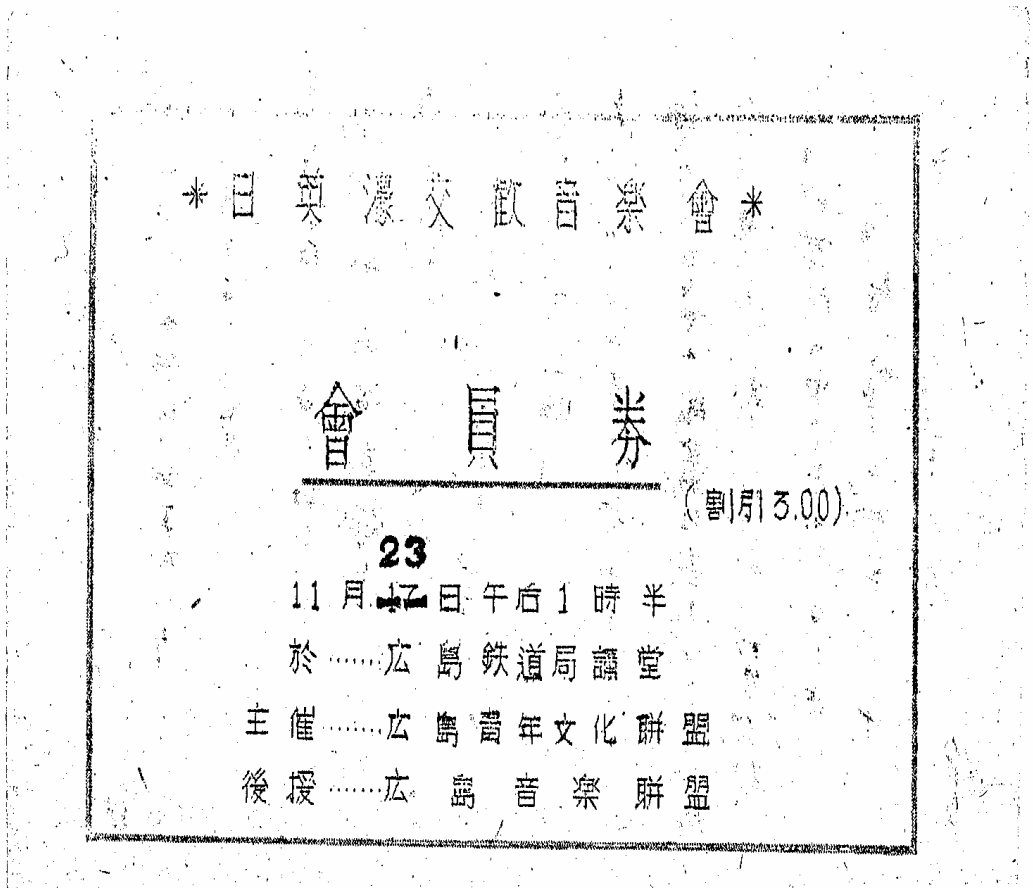
離脱

烈しい突風の中に
追ひまわるもの
あなたの中を通り抜け
幾多の山河を越え
今日新しい
新しい雄叫びの前に立つ
其処に止まって　一瞬
新しい背後の声に耳やり
裸体の豊饒の眼蓋は吾を
踏み一歩毎に新しい理解は
あゝ理想郷のゆきつかるる
其の瞬間　懐しの地平に
豊饒の夢に降る久遠に
旨はやし

中川

画像例　5　裏面使用の例（続き　本来の表）

資料番号 M1958 「詩　離脱」　日英豪交歓音楽会会員券



＊日英濠交歓音楽會＊

會員券

（割引3.00）

23

11月~~17~~日午后1時半

於……広島鉄道局講堂

主催……広島青年文化聯盟

後援……広島音楽聯盟